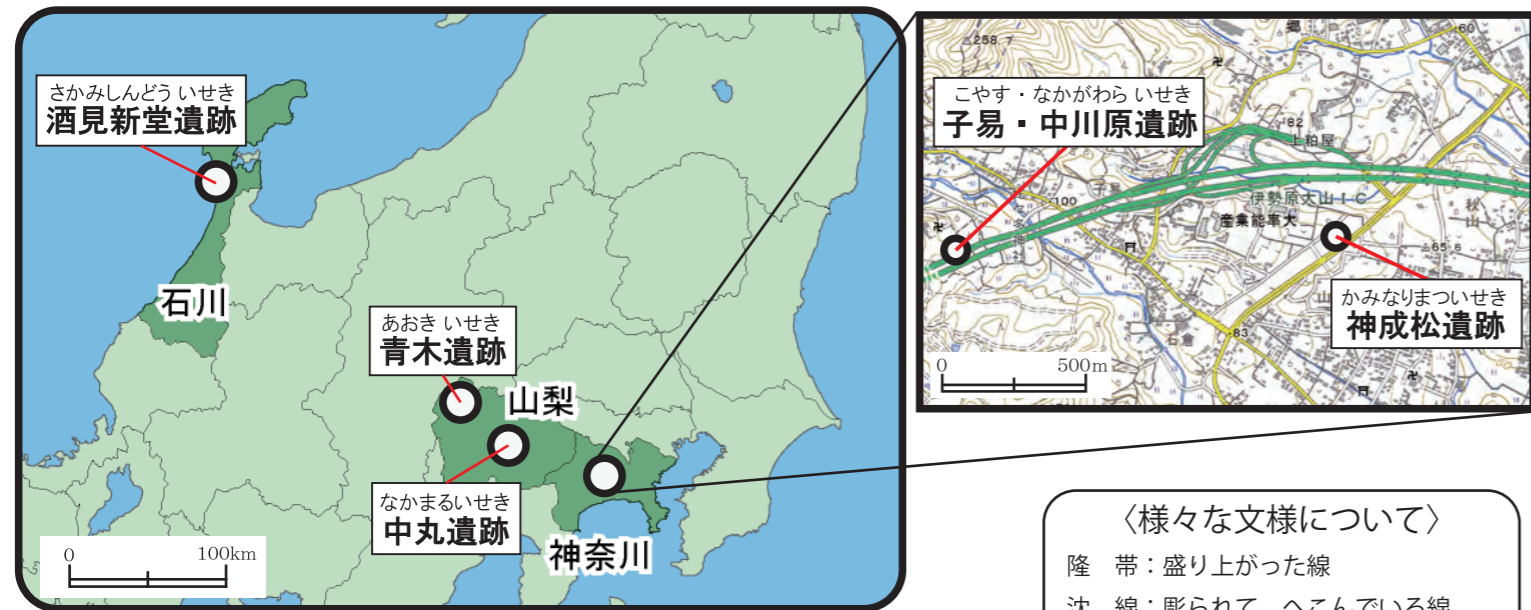


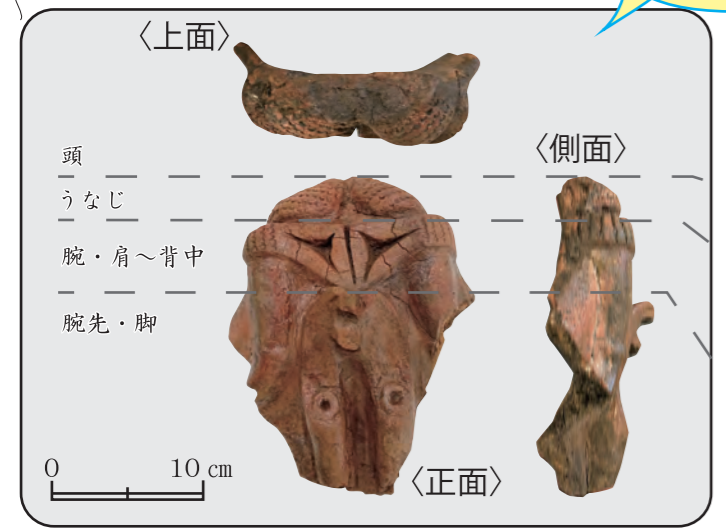
# 発掘コラム《遠隔地との交流が窺える遺物～土偶装飾付土器～》かみなりまついせき 神成松遺跡

発掘調査が盛んな伊勢原市では2021年度の調査で様々な成果が得られ、縄文時代の遺物も多く発見されました。その中には、他県で出土した遺物と類似したものがいくつか存在します。現在の行政区分が当時の日本列島に当てはまるわけではありませんが、遠隔地との交流を示す貴重な資料になると考えられます。是非、写真を見比べて、似ているところを探してみましょう！ ※写真①・③・⑤・⑥は神奈川県教育委員会所蔵



〈様々な文様について〉  
 隆帯：盛り上がった線  
 沈線：彫られて、へこんでいる線  
 刺突文：棒状工具の先端を粘土に押し付けてできる文様  
 三叉文：内側に曲がった三角形の文様

## 土偶装飾付土器と土偶



①伊勢原市神成松遺跡出土の土器

①(写真左)は伊勢原市神成松遺跡の縄文時代中期の住居から出土した土器の一部です。中期には、土偶をそのまま貼り付けたような装飾を持つ土器がいくつか見つかっています。頭を表現したと考えられる部分が欠けていますが、腕や脚のような太い隆帯や、刺突文、三叉文が特徴的です。

②(写真右)は山梨県中丸遺跡で出土した土偶のレプリカ写真です。ヤマネコのような顔を持つことで知られる土偶ですが、うなじ部から肩部にかけての刺突文なども特徴的です。

①と②の背面を比べると、その形態や文様などが類似していることが分かります。そのため、①はヒト形の背面を表現したものではないかと考えられます。

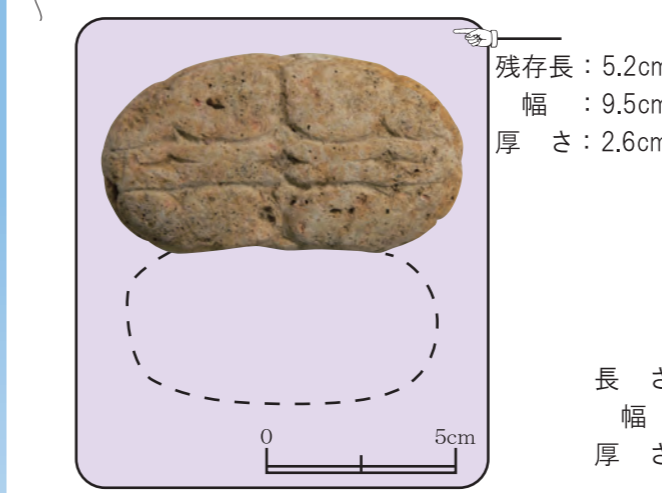
写真だと分かりにくいけど土器なんです！



②山梨県笛吹市中丸遺跡出土の土偶(レプリカ)

# 発掘コラム《遠隔地との交流が窺える遺物～岩版・小型石棒～》こやす・なかがわらいせき 子易・中川原遺跡

## 岩版(呪術や儀礼の道具?)



③伊勢原市子易・中川原遺跡の岩版



④石川県志賀町酒見新堂遺跡の岩版

③(写真左)は子易・中川原遺跡の縄文時代後期の包含層中から出土した岩版で、下半部は欠損しています。表面には沈線で三角形や菱形、それらを繋いだような文様が施されます。製作時期は断定できませんが、おおむね縄文時代後期中葉の年代観が想定されます。石材は淡色系の凝灰岩と考えられます。

類例は少ないですが、④(写真右)の石川県酒見新堂遺跡で出土した縄文時代後期の岩版があります。平行する2本の沈線間に、浅く浮き彫りにした半円状の幾何学模様の特徴的です。その他の類例としては新潟県寺地遺跡、長野県棚畑遺跡、愛知県中条貝塚などで出土したものが挙げられます。

## 小型石棒の頭部(子孫繁栄を願う道具?)



⑤・⑥子易・中川原遺跡の石棒



⑦山梨県北杜市青木遺跡の石棒

⑤(写真左)・⑥(写真中央)は子易・中川原遺跡の近世溝から出土したものです。元々、縄文時代後期の集落域にあったものが近世溝に流れ込んだものと考えられます。どちらも二重にめぐる隆帯の上に沈線を刻んでいるのが確認でき、なかでも⑥は矢羽根状に沈線が施されているのが特徴的です。

⑦(写真右)は山梨県青木遺跡で出土したものです。特に⑥と同様に二重の隆帯上に沈線が矢羽根状に施され、よく似ているのが分かります。

